

様式 6

平成19年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 研究種目名 特定共同研究(A)
2. 課題番号または共同利用コード 2007-A-17
3. 研究課題(集会)名 和文：地殻活動総合データベースの開発
英文：The development of earth crust activity integrated database.
4. 研究期間 平成 19年 4月 1日 ~ 平成 20年 3月 31日
5. 研究場所 地震研究所、東北大学、など
6. 研究代表者所属・氏名 東北大学大学院理学系研究科・海野 徳仁
(地震研究所担当教員名) 鷹野澄・佃為成
7. 共同研究者・参加者名(別紙可)
別紙
8. 研究実績報告(成果)(別紙にて約1,000字A4版(縦長)横書)(別紙に作成)
別紙
10. 成果公表の方法(投稿予定の論文タイトル、雑誌名、学会講演、談話会、広報等)

海野徳仁・平原聡・中島淳一・勝俣啓・小菅正裕・平田直・金沢敏彦・酒井慎一・山崎文人・松村一男・木村昌三・植平賢司・後藤和彦・松浦律子・津村建四朗(2007),全国大学微小地震観測網データベース(S144-003),日本地球惑星科学連合大会,S144-003,日本地球惑星科学連合

海野徳仁・河野俊夫・長谷川昭・田村良明, すず書き記録による1933年三陸沖地震(M8.1)の再検討, 日本地震学会2007年秋季大会, 仙台, 仙台国際センター, 2007年10月

海野徳仁・河野俊夫・岡田知己・中島淳一・松沢暢・内田直希・長谷川昭・田村良明・青木元(2007),1930年代に発生したM7クラスの宮城県沖地震の震源再決定-1978年宮城県沖地震のアスペリティでのすべりだったのか?-,地震 第2輯,59,4,325-337,日本地震学会

河野俊夫・海野徳仁・長谷川昭(2007),1930年代に発生したM7クラスの宮城県沖の地震の震度分布について,地震 第2輯,59,4,339-353,日本地震学会

神田克久・武村雅之・河野俊夫・海野徳仁・長谷川昭(2007),1930年代に発生したM7クラスの宮城県沖の地震の震度インバージョンの見直し(B32-01),日本地震学会講演予稿集秋季大会,2007,,66-66,日本地震学会

本多亮・茂木透、道北地域の重力測定、北海道大学地球物理研究報告、No.71、2008

野口和子・中村操・津村建四朗・大迫正弘, 地震研究所および国立科学博物館に残された
関谷清景・大森房吉の観測帳について, 地震研究所技術研究報告, 2008.

大迫正弘・野口和子, 一ツ橋と本郷での簡単地震計による地震記録, 地震研究所彙報, 81,
1, 1-53, 2007.

津村建四朗・鷹野 澄・野口和子, 地震研究所に保存されている過去の調査・観測資料
の再調査(その1), 第853回地震研究所談話会, 2007.9

松村正三, 里村幹夫, 内海さや香, 東海地震のアスペリティの推定(東海地域の地震活
動変化と地殻変動: その5), 地震II, 2008,

備考 ・研究成果を論文等で発表される場合、以下の形式の文章を謝辞等に記載して下さい。

(英語)This study was supported by the Earthquake Research Institute cooperative research program.

(和文)本研究は、東京大学地震研究所共同研究プログラムの援助を受けました。

- ・特定共同研究Bについては、プロジェクト終了年度に冊子による報告書の提出が必要です。
- ・研究成果について、本所の談話会、セミナー、「広報」での発表を歓迎いたします。

別紙

7. 共同研究者・参加者名

共同研究者名	所属・職名	備考	
海野 徳仁	東北大学 教授	代表	
茂木 透	北海道大学 教授		
本多 亮	北海道大学 研究員		
小菅 正裕	弘前大学 准教授		
三浦 哲	東北大学 准教授		
木股 文昭	名古屋大学 教授		
大見 士朗	京都大学 准教授		
植平 賢司	九州大学(島原) 助教		
後藤 和彦	鹿児島大学 准教授		
高濱 聡	気象庁		
吉岡 敏和	産総研		
関口 涉次	防災科学研究所 主任研究員		
島崎 邦彦	地震研究所 教授		
加藤 照之	地震研究所 教授		
平田 直	地震研究所 教授		
都司 嘉宣	地震研究所 准教授		
鶴岡 弘	地震研究所 助教		
中川 茂樹	地震研究所 助教		
佃 為成	地震研究所 准教授		担当教員
鷹野 澄	地震研究所 准教授		担当教員

8. 研究実績報告(成果)(別紙にて約1,000字A4版(縦長)横書)(別紙に作成)

日本列島及びその周辺域を対象として、これまで各大学や観測機関で蓄積されてきた地形、重力、地殻構造、地殻変動、地震活動等の基礎データを整理・統合し、地殻活動予測シミュレーションモデル開発の基礎となるデータベースを開発することを目的として、各大学において、ア.日本列島地殻活動情報データベースの構築、イ.地殻活動データ解析システムの開発、ウ.古い地震記象の整理とデータベース化、などが実施された。

東北大学では、過去のすず書き記録のデジタル化を進めており、それを利用した過去の大地震の再解析を進めて多くの成果が出ている。また、全国の大学の研究者の間で数年来進めてきた微小地震観測網のデータの整理が進み、その成果が学会等で報告された。

地震研究所では、地震研究所が保管する古い記録の整備について、所内の古地震・古津波記録委員会で議論し、一昨年、昨年に引き続いて、SMAC型の強震記録についてのフィルム作成作業を行い、約500枚の記録を大判のフィルムに焼付け、またそのデジタル画像の作成を行い完成した。また、保管状況が悪化してきている古いマイクロフィルムについても、一昨年、昨年度に引き続き、フィッシュフィルムのファイリング整理、ロールフィルムのブラッシュアップと分割を実施した。また、貴重資料の調査の成果を、地震研技術報告、地震研彙報、地震研談話会などで報告した。

以上